

第57回
土木計画学
研究発表会

スペシャルセッション部門 『スマート・プランニングの活用と実践』開催

平成30年6月9日(土)、第57回土木計画学研究発表会・春大会@東京工業大学(大岡山キャンパス)にて、スペシャルセッション部門『スマート・プランニングの活用と実践』を開催しました。

会場には約60人が集まり、各地での活用事例の紹介や意見交換によりスマート・プランニングの現状について理解を深め、今後へ期待が膨らむ会となりました。



はじめに

セッションの開催にあたり、東京大学大学院工学研究科の原田昇教授より、スマート・プランニング研究小委員会の活動報告があり、積極的な取り組みにより実践的に進める成果がでているとの感想をいただきました。

また、都心の拠点の中で歩ける街として施設整備を評価することが必要であること、移動や活動といった道路空間の多様性を活用し気の合う仲間と好きなことができる居場所を創ることが求められること、ストラスブールでは徒歩憲章で街に出て市民がすれ違う都市空間を取り戻そうとしていることを挙げ、スマート・プランニングの活用と実践により今後目指すべき方向性についてご意見をいただきました。



スマート・プランニングの現在地

国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室の関信郎課長補佐より『スマート・プランニングの現在地』と題して、スマート・プランニングの定義やこれまでの取り組み内容、今後の展開について説明がありました。まず、証拠に基づく政策立案(EBPM)の必要性から市民への説明性を向上するためにもスマート・プランニングは有効であるとし、様々な政府方針の中でも位置づけられ、検討を進めているとの説明がありました。

また、これまでの取組報告が行われたのち、今後の展開として、手引きの更新、自治体・コンサルタント向け説明会を引き続き開催、現地セミナー、対象施策の追加、モデルの改良、Wi-Fiデータの活用、簡易モデルの模索等を進めるとともに、導入事例を増やしたいとの説明がありました。



<平成29年度の取組事例>

2017/7/22
ワンデイセミナー@東京大学



2018/2/21
実践セミナー@甲府市



スマート・プランニングを商標登録!

平成30年5月に、

スマート・プランニング

が特許庁に認定され、商標登録されました。
(登録第6045246号)
今後も更なる普及のため活用と実践を進めていきます。



各地の取組状況報告

■岡山県岡山市 (財)計量計画研究所 石井氏

～再開発、施設移転等の適用事例について～

滞在時間の評価と対象施策の追加をねらいとした回遊行動モデルについて岡山市を対象とした試算結果を紹介。

- ①施策の組合せ（再開発、歩道拡幅、オープンカフェ）による延べ滞在時間の増加、立ち寄り回数の増加、回遊距離の増加を確認
- ②公共施設の移転によるゾーン別来訪者数の変化を確認
- ③駐車場の集約による長時間滞在者の増加を確認
- ④路面電車のサービス向上で滞在時間、回遊距離の増加を確認

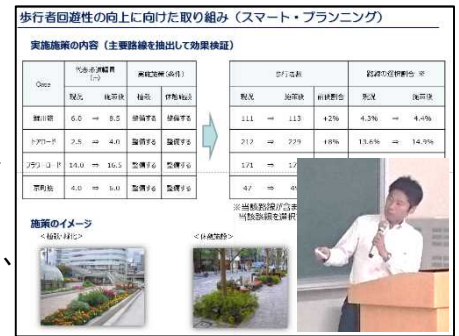


■兵庫県神戸市 神戸市住宅都市局都市計画課 山口氏

～道路空間再配分への適用事例について～

神戸市都心における歩行空間の整備を対象に、回遊行動シミュレーションを用いて歩行者の移動状況と施策の効果を実証的に評価した事例を紹介。

- ①鯉川筋、北野坂でのケーススタディにより、歩道拡幅、植栽設置、休憩施設設置による交通量の増加を確認
- ②歩行者通行量について施策前後の観測値とモデル値を比較

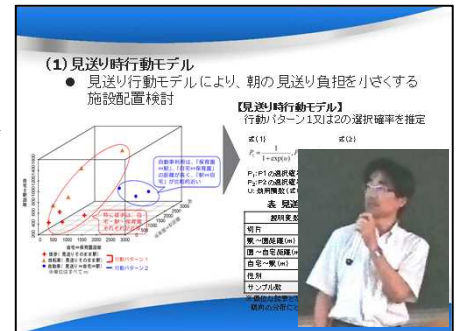


■千葉県流山市 (株)福山コンサルタント 渋谷氏

～子育て施設への適用事例について～

流山市で実施したアンケート調査、プローブパーソン調査の結果と送迎時の行動パターンを予測する簡易的なモデルを紹介。

- ①見送りでは駅から保育園までの距離により行動パターンが異なることから、駅と保育園の距離によるモデルを作成
- ②送迎ステーションを利用する場合、買い物などの立ち寄りが多いことから余裕時間と施設間の距離を説明変数としたモデルを作成



意見交換

意見交換の冒頭では、**山梨大学工学部土木環境工学科の佐々木邦明教授**より甲府市で実施したセミナー参加自治体からの感想が紹介され、実務での進め方や、現状として中心市街地への来訪が少ない中で人を呼び込むための魅力が必要であること、施策を打ち出すためには長い時系列で適用できる手法が求められることなどの課題認識を共有していただきました。

また、**(株)コロプラの酒井氏**からはスマート・プランニングに活用できるデータの提案として、ビッグデータの活用事例やデータ仕様の現状について報告いただきました。

その他、会場からも多数の意見があり、活発な意見交換の場となりました。



山梨大学 佐々木教授



コロプラ 酒井氏



会場からの質問の様子

まとめ



オーガナイザーの**国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室の越智健吾室長**より、モデルの構築が進んできたもののデータの購入には課題がある中で、技術的に進展しているビッグデータを活用していくことが必要である。これまで培われてきた「土木」の素養を取り入れながら、今後も取組みを進めるとしてセッションは締められました。

本セッションで用いました資料につきましては、スマート・プランニング研究小委員会ホームページにおいて後日掲載予定です。